

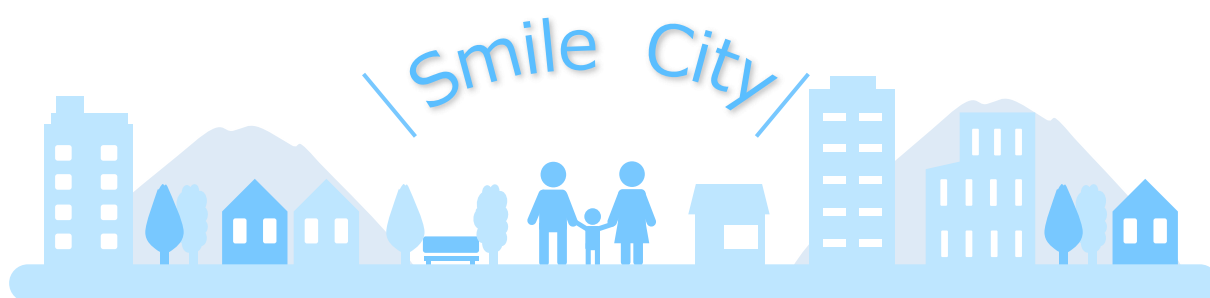
第5章

教育・文化・スポーツ

～意欲と活力を育む学びのまち～

基本施策

26	学校教育の推進	146
27	社会教育の推進	150
28	次世代の学校・地域創生の推進	152
29	山口東京理科大学の教育環境の整備・充実 ..	154
30	芸術文化によるまちづくりの推進	156
31	スポーツによるまちづくりの推進	160



基本施策

26

学校教育の推進

あるべき姿

社会の変化が激しく、将来の予測が一層困難な時代を迎える中で、子どもたちが自分のよさや可能性を認識し、多様な他者と協創しながら持続可能な社会を主体的に創造することができるよう、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた学校教育の体制づくりが図られています。また、山口東京理科大学をはじめとする様々な地域の教育資源を活用することで、学校教育の質が一層向上しています。

現状と課題

- 子どもたち一人一人の元気と笑顔があふれる学校の協創のため、心理的安全な環境づくりや不登校など特別な配慮を要する児童生徒への支援体制を充実させ、だれ一人取り残されない教育を実現する必要があります。
- 「主体的・対話的で深い学び」を目指し、個別最適な学び[※]と協働的な学び[※]を往還させ、ICT[※]を活用した多様な学びを更に充実する必要があります。
- 子どもたちの郷土への誇りと愛着を育むために、地域資源や地域の方々の思いを活かし、市立大学を含めた学校間連携を強化することで、継続的な教育とキャリア教育[※]の充実を図る必要があります。
- 教育活動を効率的かつ効果的に行え、また子どもたちが快適に学ぶことができる施設・設備等の整備を進めていく必要があります。

4年間の目標

- 児童生徒が安心して、楽しく充実した生活を送ることができる学校・学級づくり
- 児童生徒への不登校支援の強化
- ICT[※]の活用による、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 地域の教育資源の開発と教材化
- 幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学及び教育産業との連携強化
- 幼稚園、小・中学校における教育環境の整備・充実
- 教職員及び教育委員会事務局職員の働き方改革の実現

目標指標

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
学校は楽しいと回答する児童生徒の割合	各学校の学校評価アンケート	90.5%	100%
授業は分かりやすいと回答する児童生徒の割合	各学校の学校評価アンケート	88.0%	100%

基本事業

(1) 心に寄り添う学校づくりの推進

子どもたち一人一人が安心して楽しく過ごすことができる居場所と魅力ある学校づくりを推進します。児童生徒の問題行動、不登校等生徒指導上の諸課題の未然防止と早期発見・早期対応ができるよう、相談体制の構築と関係機関との連携を進め、誰一人取り残されない教育の実現を目指します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
関係機関とつながっている不登校児童生徒 [※] の割合	関係機関とつながっている不登校児童生徒 [※] 数 ÷ 不登校児童生徒 [※] 数 × 100	66.3%	80.0%

主要事業

■ いじめ・不登校対策推進事業

■ 児童生徒の安全対策推進事業

(2) 教育環境の向上

子どもたちがこれからの時代に必要とされる資質や能力を身に付けられるとともに、配慮の必要な児童生徒が適切な支援を受けられることができるよう、学校の教育環境を整備します。学校の施設・設備の改築・更新を進め、計画的な老朽化対策や長寿命化対策を実施することで、安全・安心で、快適な学校づくりに努めます。また、健やかな身体を育成するため、安全・安心な学校給食を提供し、食育を推進します。さらに、教育のDX※化を推進することにより、教職員及び教育委員会事務局職員の働き方改革を進めます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
自ら進んで学習している児童生徒の割合	コミュニティ・スクール※ 意識調査アンケート	71.4%	100%
学校トイレ洋式化率	—	36.8%	100%

主要事業

- 学校教育振興事業
- 教職員の資質向上事業
- 学校ICT環境整備事業
- 学校施設整備事業
- 特別支援教育支援事業
- 学校給食実施事業

(3) 指導内容・方法の工夫

子どもの豊かな学びを実現するために、教育DX※の推進、ICT※の活用、体験的な学習の展開、地域について探求する学びなど、主体的・対話的で深い学びのある授業への改善を進めていきます。また、教育課題に関連する研修会を実施することにより教職員の資質・能力の向上に取り組みます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる」に「当てはまる」と回答する児童生徒の割合	学校教育課が実施するアンケート	53.3%	80.0%

主要事業

- 生活改善・学力向上事業
- 特色ある学習指導・生徒指導推進事業
- 子ども市民教育推進事業

(4) 学校間連携教育の推進

小学校と中学校の9年間で児童生徒に身に付ける資質・能力を明らかにした教育を展開していきます。中学校区を単位とした小・中学校と地域が連携した学校地域連携カリキュラムの見直しを行うとともに、幼稚園や保育所との連携や高校や大学との連携を強化し、教育の質の向上を図ります。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
学校地域連携カリキュラムを年間で2回以上小中学校が連携して見直しを行っている中学校区の数	中学校区内で連携したカリキュラムの策定及び更新状況	1 校区	6 校区

主要事業

■ 小中一貫・連携教育推進事業

■ 幼保・小連携事業

関連する個別計画

- 山陽小野田市学校施設整備計画（令和3年度～令和17年度）



1人1台端末を使用した授業

基本施策

27

社会教育の推進

あるべき姿

将来の予測が難しい時代において、市民が自ら課題を解決し、持続可能な社会を築くために、学びを通じたつながりの場を提供します。これらの社会教育の取組により、地域全体の幸せや生きがい・豊かさを向上させるとともに、持続可能な地域コミュニティの基盤が形成されています。

現状と課題

- 主催講座受講者、生涯学習クラブについて、参加者の固定化や高齢化が見られます。
- 社会教育関係団体の活動が停滞しているため、社会教育人材（実践者）の育成やネットワークづくりをすることが必要です。
- 図書館における来館者数・貸出冊数が減少しており、来館者数、貸出冊数を増やす取組が必要です。
- 青少年の育成に向けて、補導活動の見直しや SNS*上のいじめやトラブルに関する事業を検討する必要があります。

4年間の目標

- 中高生や働く世代に社会教育への関心や参画を広げるための事業展開
- 地域交流センター*における社会教育の充実
- 市内で活動する社会教育人材の増加を図る取組の実施
- 市民団体活動や大学、企業との連携
- 市内小中学校と市立図書館の連携による書籍の利用増を図る取組
- 新たな図書館利用者を開拓するためのきっかけづくり
- 補導活動の見直しや SNS*上のいじめやトラブルに対応する体制づくり
- 青少年相談活動（ヤングテレホン*等）の充実、相談員の資質向上

目標指標

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
地域課題(必要課題)に対応した講座の受講者数	生涯学習主催講座の年間受講者数(津布田会館を含む。)	10,779 人	11,500 人

基 本 事 業

(1) 社会教育活動の推進

人生 100 年社会を迎え、生涯にわたり学び続けることが求められています。様々な地域課題や市民ニーズに対応した多様な学びの機会を提供し、個人が学び、成長するとともに学びの成果を地域に還元することで、社会的つながりを促進させ、地域全体の幸せや生きがい・豊かさの向上に努めます。図書館では、幼児から大人まで全ての市民があらゆる機会を通じて読書活動ができる環境づくりに取り組みます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
生涯学習主催講座の参加人数	年間参加人数(津布田会館を含む。)	16,461 人	17,500 人
図書館貸出冊数	中央・厚狭図書館、分館、電子書籍を含む(年間)	327,288 冊	342,200 冊

主要事業

- 社会教育推進事業
- 社会教育関係団体育成・支援事業
- 読書活動推進事業
- 社会教育主事育成事業

(2) 青少年健全育成活動の推進

補導活動や相談活動を始めとする青少年育成センターの活動を継続し、相談員の資質向上に努めます。また、関係機関との緊密な連携を図るとともに、親子のつながりを大切にするための活動に取り組みます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
不良行為少年の補導人数	山陽小野田警察署まとめ	10 人	9 人

主要事業

- 青少年健全育成推進事業
- 青少年育成センター事業

関連する個別計画

- 山陽小野田市子ども読書活動推進計画 (令和5年度～令和9年度)

基本施策

次世代の

28

学校・地域創生の推進

あるべき姿

地域、学校、家庭の連携・協働が十分に機能することにより、地域の教育力が向上しています。加えて、社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりを推進し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えながら地域の活性化が図られています。

現状と課題

- 地域学校協働活動推進員や学校支援ボランティア、家庭教育支援チーム員、放課後子ども教室^{*}のコーディネーターや安全管理員など、地域の教育力として活動していただいている方の高齢化や人材不足が課題となっています。
- 地域学校協働活動の取組が進む地域と停滞する地域の差が見られます。

4年間の目標

- 社会教育活動を推進する人材の発掘・育成
- 地域学校協働活動推進員の資質向上を図る研修や推進員の横のつながりをつくる取組の実施
- 小学校と中学校との連携深化や市内の高校と山口東京理科大学を含めた連携の更なる推進
- 学校地域連携カリキュラム^{*}の見直し・充実

目標指標

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
地域学校協働活動に参加する地域住民の数	年間人数	51,118人	61,000人

基本事業

(1) 学校・家庭・地域の連携の推進

学校、地域、家庭が一体となって、学校教育を含む地域教育力の向上を図るため、地域で活動していただいている方の後継者や関係者の発掘・育成に注力し、人材育成のための事業を展開します。また、地域学校協働活動推進員の資質向上のための研修や推進員間の連携強化を図り、小中学校間の連携深化及び市内の高校と山口東京理科大学を含む地域連携の推進に取り組みます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
「あなたは今住んでいる地域が好きですか」の肯定率	コミュニティ・スクール※ 意識調査アンケート	90.1%	99.0%

主要事業

- コミュニティ・スクール推進事業
- 家庭教育支援事業
- 地域学校協働活動推進事業



地域と生徒によるグループディスカッション

基本施策

29

山口東京理科大学の教育環境の整備・充実

あるべき姿

山口東京理科大学の教育施設等の整備・充実を大学と連携して進めることにより、質の高い教育研究活動及び次代を拓く人間性豊かな人材の育成が行われています。また、大学の知的・人的財産等を積極的に活用し、産学官及び地域社会との連携が展開され、地域の高等教育機関として公立大学に期待される「知（地）の拠点」の役割を果たし、地方創生の推進に貢献しています。大学施設が充実することにより、大学での学生生活の満足度が向上しています。

現状と課題

- 大学進学者が減少に転じることが見込まれていることから、地域に必要とされ、魅力のある大学づくりを山口東京理科大学と連携して進める必要があります。
- 地方創生の推進を図るため、大学の知的・人的財産等を積極的に活用することが必要です。

4年間の目標

- 山口東京理科大学との連携による、魅力ある大学づくりの推進
- 大学の知的・人的財産等の積極的な活用

目標指標

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
学生生活総合満足度(とても満足+まあ満足と回答した割合)	大学生生活意識調査(毎年、大学が実施)	86.3%	87.5%以上
市と大学の連携事業数	市と大学が連携して実施する事業の数(年間)	59 事業	64 事業

基本事業

(1) 山口東京理科大学の教育環境の整備・充実

地域に根差した「知（地）の拠点」としての役割を果たし、多くの学生に選ばれる魅力的な大学づくりを推進するため、山口東京理科大学が行う教育研究組織の改編に対応し、山口東京理科大学と連携して教育環境の整備・充実を図ります。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和8年度)
学科新設に伴う研究室棟の整備	学科新設に伴い整備が必要な施設	着手	完成

主要事業

- 公立大学法人山口東京理科大学施設整備事業
- 公立大学法人山口東京理科大学運営事業

第5章

教育・文化・スポーツ
 意欲と活力を育む学びのまち



山口東京理科大学での衛生薬学実習

基本施策

30

芸術文化によるまちづくりの推進

あるべき姿

本市の特色のある芸術文化を定着させ、市内外の認知度向上に努めるとともに、文化施設の安全性の確保と利便性の向上を図り、持続可能な運営を行うことで、豊かな人間性を育み、本市に愛着と誇りを感じるまちづくりをしています。また、文化財の保護や効果的な活用に努め、ふるさと文化遺産^{*}や講演会等を通じて市民へ広く周知し、郷土愛の醸成が図られています。

現状と課題

- 山陽小野田市文化会館は開設から31年が経過し、老朽化が顕著となっているため、本市の「文化芸術の中核拠点」として、市民ニーズや山陽小野田市民館との役割分担等を踏まえながら、館運営や改修を行う必要があります。
- 「ガラス」や「かるた」によるまちづくりに取り組んでいますが、にぎわいの創出や市のイメージ向上など、文化によるまちづくりの実現には至っておらず、更なる取組が必要です。
- 文化活動の担い手や文化イベントへの参加者が固定化、高齢化しています。市民ニーズを踏まえた文化事業の展開が必要です。
- 文化財を良好な状態に保ち、公開・活用を通じて、市民の文化財への関心を持ってもらう必要があります。
- 文化財を適切に収蔵する場所の確保や文化財の活用を見据えた施設整備を検討する必要があります。

4年間の目標

- 文化施設の適切な整備・運営
- 芸術文化推進の体制整備
- 「ガラス」や「かるた」を中心とした芸術文化によるまちづくりの推進
- 市民ニーズを踏まえた文化事業の推進
- 地域、学校と連携した文化財の保護・活用
- 市民の関心を高め、親しみをもてる文化財の活用
- 文化財の保存・活用計画に沿った整備や保存管理

目標指標

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
芸術文化の創作活動、行事への参加、鑑賞機会がある人の割合	総合計画策定に係る 市民アンケート	46.2 点	55.0 点
市の歴史や文化に愛着を感じる人の割合	総合計画策定に係る 市民アンケート	52.1 点	60.0 点

基本事業

(1) 芸術文化を育む環境づくり

芸術文化に触れ、豊かな人間性が育まれるよう、限られた予算の範囲内で市の文化施設を計画的に整備するとともに、市民ニーズに沿った様々な特色のある文化事業を提供します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
文化施設(文化会館・市民館)利用者数	年間利用者数	58,416 人	90,000 人

主要事業

■ 文化会館維持整備事業

■ 市民館維持整備事業

(2) 芸術文化活動の推進

市民の文化に触れる機会の充実のために、ピアノマラソン、市民文化祭などの特色ある事業は、更に発展させ、芸術文化活動を推進するとともに、重点的に取り組んでいる「ガラス」や「かるた」については、まちのにぎわいの創出や市のイメージ向上につながる事業を展開します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
市内のかるた競技団体数 (部活を含む。)	—	4 団体	7 団体
ガラス体験者数	年間体験者数	5,703 人	5,800 人

主要事業

- 文化によるまちづくり推進事業
- ガラス文化推進事業
- 芸術文化活動支援育成事業
- 世代別市民文化度育成事業

(3) 文化財の保護・活用

市民の郷土愛の醸成を図るため、地域の伝統・文化の象徴である財産を適切に保存・管理・デジタル化[※]し、その活用を図るとともに、そのために必要となる施設等の整備・改修に取り組みます。また、ふるさと文化遺産[※]の登録や地域・学校と連携した文化財活用の取組、歴史民俗資料館の充実を図ります。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
文化財をテーマとした地域・学校との連携事業の参加者数	年間参加者数	973 人	1,000 人
歴史民俗資料館企画展来場者数	年間来場者数	2,940 人	3,500 人

主要事業

- 文化財保護活用事業
- 文化財保存整備事業
- 文化財保存展示事業(歴史民俗資料館)

関連する個別計画

- 山陽小野田市文化芸術振興ビジョン（令和4年度～令和12年度）



ガラス制作体験



初心者向け かるた競技

基本施策

31

スポーツによるまちづくりの推進

あるべき姿

本市の体育施設について、安全性の確保と利便性の向上を図り、持続可能な運営を行うとともに、ウォーキングやジョギング、さらにはレクリエーション的なスポーツにも取り組み、本市が目指す「スマイルエイジング※」を定着させ、体力維持及び向上につなげています。また、レノファ山口をはじめとするトップアスリートとの交流を深め、スポーツによるまちづくりが進み、まちの賑わいを創出しています。あわせて、中学年代の部活動の地域展開を好機と捉え、地域クラブの設立支援を行うことで、生徒の選択肢や世代間交流の拡充に努めています。

現状と課題

- 市内には様々な体育施設がありますが、老朽化が進んでおり、改修するには多額の費用が必要になります。
- 本市ではスマイルエイジング※の取組を推進しており、更に健康増進につながる運動を促す必要があります。
- 総合型地域スポーツクラブ※は市内で2か所ありますが、地域のキーパーソンが不足しており新たなスポーツクラブの設立につながっていません。
- レノファ山口やパラサイクリング※等のトップアスリートとの交流を通じたまちづくりに取り組んでいますが、まちの賑わいの創出が十分とは言えず、その取組についての市民の認知度が低い状態です。
- 中学年代の部活動の地域展開に関し、地域クラブの設立や指導者の確保が進んでおらず、体制整備が急がれます。

4年間の目標

- 体育施設の適切な管理、計画的な改修実施
- 体育施設の統廃合に向けた協議の開始
- 多様な運動方法の促進、多様な運動機会の提案
- 担い手の育成・支援
- レノファ山口、パラサイクリング※等のトップアスリートとの交流推進及び PR 促進
- 中学年代の部活動の地域展開に係る体制整備

目標指標

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
週1回以上スポーツ(ウォーキング等の軽運動含む。)を行う割合	健康に関する市民アンケート	61.0%	65.0%

基本事業

(1) スポーツに取り組む環境づくり

市内の体育施設の適切な管理・計画的な改修を行うとともに、生涯にわたり、スポーツに取り組むことができる環境の整備を図ります。また、市の財政状況も厳しい中、体育施設における維持管理費・改修費等も年々増大してきている現状において、施設の統廃合に向けた協議を始めるとともに、拠点施設には新たな設備導入や施設整備に努めます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
体育施設利用者数	年間利用者数	280,093 人	300,000 人

主要事業

- 体育施設維持整備事業

(2) スポーツ活動の推進

本市ではスマイルエイジング[※]に取り組んでおり、担い手の育成・支援を行うことで、総合型地域スポーツクラブ[※]等の活動を活発化させ、スポーツ活動を推進するとともに、中学年代の部活動の地域展開においても体制整備を図ります。また、魅力あるスポーツイベントを通じて、本市とつながりの深いトップアスリートと交流を行うことで地域の一体感の醸成、まちの賑わいを創出します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
中学年代の部活動の地域展開に係る地域クラブ数	—	0 クラブ	40 クラブ
トップアスリート等との交流人数	年間交流人数	1,217 人	1,500 人

主要事業

■ スポーツによるまちづくり推進事業

■ 生涯スポーツ推進事業

関連する個別計画

- スポーツによるまちづくり推進計画（令和8年度～令和12年度）



パラサイクリングナショナルチームと小学生の交流



レノファ山口と幼稚園児との交流